

## 欧州視察報告＜ 2 ＞

視 察 項 目	イエナプラン教育
視 察 日 時	2012年7月24日（火） 午前9時～11時
視 察 先 名	イエナプラン教育協会
説 明 者	会長 ヤーフマイヤー
担 当	粕谷葉子 織田勝久 露木明美



イエナプラン教育協会会長のヤーフマイヤーさん

ホテルの会議室でレクチャー

### 【はじめに】

イエナプラン教育協会会長のヤーフマイヤーさんに本部のあるズトフェン市からご足労いただきレクチャーを受けた。

イエナプラン教育協会にはイエナプラン教育方針学校すべての学校が加盟している。1920年、ドイツで生まれ、オランダには1960年頃から研究され、1967年に開始された教育である。オランダには全部で200校あり、ベルギーのフランダース地方やドイツに3校、ポルトガルに1校ある。ほかの国にはあまり知られていない独特の教育方針となっている。小学校がほとんどで、中学校は4校のみ。日本へは尾木直樹氏が紹介し、教科書を2冊翻訳している。日本からは毎年、教育関係者が視察に来るとのこと。

・・・日本に紹介されたビデオを視聴・・・

ビデオの中でイエナプラン教育の現状の紹介があり概略は以下の通り。

- ・学級概念はなく、4歳から3年ずつの区切りで1クラスとなっている。
- ・チャイムはなく規則で縛られない。自由・自律させている。
- ・型にはめず、子どもたちだけで学び合っている。先生は注意しなくても、お互い聞きあうことができる。
- ・自ら学び合いたいことを子どもたちが決めていく。自分たちの時間割を決める。先生はアドバイスを与えるだけ。宿題はない。
- ・助け合ったり、サポートし合ったりしながら、学習を進めている。
- ・家族のような絆ができる。

参考にオランダの義務教育は4～18歳であり、学校には公立校と特別校（私学）があり、国からの支援は同じである。オランダの公立校は5,000校、特別校は1,000校、このうち200校がイエナプラン校となっている。

## 【イエナプラン教育の概要】

- \* 基本的なプランはあるが考え方や概念をどのように現実化するかは各教師に任されている。国籍が多様な場合や上流階級が多い場合などについては、やり方が異なっているようである。子どもたちの前に教師として立った時に一人ひとりに対して最も良いことは何か、何を与えたらよいかを教師が考えることを基本としている。イエナプランでは人間の全体像として成長することを考えており、算数と国語だけ発達すればいいとは考えていない。社会に必要な様々な能力が発達すべきだと考えている。例えば、ビジネス感覚を持たせる、イニシアチブを持たせる、言われたことを待っているだけではなく自分でプランニングを立てて実行しようとする、何か問題を抱えている時どうしたらいいか自分で考えることができること、実行力・計画力がある子、責任を持てる子、何かしたいとき最後までやり遂げる子、自分と同じように人に対する思いやりを持てる子、自分が作ったことなどをプレゼンできるようにすること、これらのように非常に高い目標を持っている。自分の能力を最大限に発揮することをゴールとしている。
- \* 一日体験入学した場合、日課としては様々な学習方法を行うことで集

- 中力を保つことが大切であり、教師は集中力が続いているかを見ている。
- \* しつけは家だけで行うものと考えていない。家庭で問題を持っている場合、自分で解決する方向に進めていく。親と良いコンタクトをとっていることが重要であり、何が必要か親も理解し、学校と親が卒業まで連携協力して育てていく。
  - \* 自ら学ぶ能力は社会に出た時に大切な能力である。イニシアチブをとれる人、自主的に仕事ができる人、周りの人と連携協力をとれる社会性のある人、フレキシブルな人などが好まれる。その子に内包されている能力を引き延ばすことが大切である。
  - \* 苦手なことを指摘するのではなく、得意なことを褒めることが大切。また、ベストを尽くす環境が大切である。自信を無くすとか、いじめられるということはあってはならず、個の力を信じて前向きに考える。教師は一人ひとりがどのように挑戦課題を持つかを考えなくてはならない。ほかの子のクオリティーを使いながら学び合うことも強調する。
  - \* 日本でいう学年の概念はなく、学年をミックスし合う。4歳から3学年毎に異年齢で家族グループを作り、この根幹グループでは年長の子が下の子に教えることができる。
  - \* 興味グループという分け方もあり、興味に応じてプロジェクトを行う。これはイエナプランの正式なカリキュラムであり、実績を出す必要がある。イエナプランは一般の小学生の要求条件を十分満たしており、国の教育方針を全うしながらも、やり方は自分たちの方法で行いたいというのがイエナプランである。
  - \* プロジェクトでは算数や国語も活用する。能力はペーパーテストだけで計るものではなく、学んだ事を活用できて初めて能力が身についたと考えている。
  - \* 教育目標を1つ1つ達成しながら基本から応用へと進めており、教師にはコーディネート能力が求められる。
  - \* イエナプラン教育を導入しようとした場合、一般の資格の他にイエナプラン教育の資格が必要となる。

## 【主な調査内容】

### ○留年について

あってはならないという考えであり、子どもには多様性があると考え、留年の考えは生まれにくい。能力差は当然であり、誰一人怠けているわけではないと考えている。教師としてやり方を考えていけば目標は必ず達成できる。一人一人の子どもを教師がよく知り、日々どのようにするか毎日反省しながら進めている。また、国の教育レベルを全うしているか考えながら教育活動を行っており、国の方針から外れることはない。

### ○親について

インターネットの発達により、教育内容が詳しく見られるようになってきている。親の目が厳しくなり、親と教師がよくコンタクトをする事がより大切になっている。何がプラスになるか考え、親のヘルプを求めるところもある。親の状況によってヘルプに応じるかは自由であり、一緒に参加し一緒に考えてもらう。また、保護者会もある。

### ○親がイエナプランを選んだ理由

根幹グループ（3学年）の編成や教師との関係が評価されているようである。

### ○進路について

イエナプランの中学校はほとんどない。一般の中学校に進学するが問題はない。現在、イエナプランの新設校の建設は難しいが、今ある学校がイエナプランに変更することはできる。イエナプラン学校を開校する場合は協議会に参加し、協議会が学校をサポートすることとなる。

## 【質疑・応答】

Q 1 : オランダの特別学校とは？

A 1 : 公立学校と特別学校（私学）があるが国からの支援は同じである。

特別学校は 250 人集まれば設立できる。国からの支援のない学校もある。このことについては今、いろいろな論議があり、国の教育レベルを達成しない学校では閉鎖もあり得る。

Q 2 : 教育レベルの達成度の判断は？

A 2 : ペーパーテストと観察があり、4年に一回行う。学校には報告書を出す義務がある。国の担当者に来校してもらい観察することも大切と考えている。

Q 3 : 4歳から学校なのか？

A 3 : 4歳から18歳まで義務教育である。それ以前は2歳半から保育園であり、親が働いている場合7時から預かる保育サービスを行う学校もある。

Q 4 : オランダでの進学熱についてはどうか？

A 4 : 2～3年前から語学と数学が大切と考えるようになった。オランダでは、まずは、いろいろな才能を育てることや人格形成が大切であると考えている。もちろん、数学と語学はしっかり行う必要があることとは認識している。

Q 5 : イエナプランの学校の割合は？

A 5 : 国全体の学校数は6,000校でイエナプランの学校は200校である。公立は5,000校で1,000校が特別学校(私学)、1,000校のうち200校がイエナプラン校である。イエナプラン校の生徒数は増加傾向であり、家庭教育は強化されてきている。

Q 6 : 途中でやめる場合はあるか？

A 6 : 親の都合で1年間休学する場合もある。また、親の宗教の都合により家庭で教育する場合などがある。

Q 7 : 1グループは何人か？

A 7 : 1クラスは最高で30人で、それより少ない場合もある。

Q 8 : 1クラス30人では家庭的雰囲気での教育することは可能か？

**A 8** : 家に帰り、学校のことを話す風土がある。安心して話せる家庭的雰囲気があり、人数が多くても家庭的雰囲気は可能と考える。

**Q 9** : 家庭から学校への具体的支援とはどのようなものか？

**A 9** : 保護者会ではイエナプランを家で行うにはというテーマでディスカッションした。読み聞かせなどで協力してもらうこともあるが、親は教員免許がないので一線を画している。

**Q 10** : イエナプランの学校と公立校での教科書の違いは？また、補助教材は？

**A 10** : 日本のような教科書の検定はないので自由に教科書を選べ、学校でそれぞれ選んでいる。イエナプランからは国語、算数、日本でいう社会の計3冊を出している。

**Q 11** : 中学校のイエナプラン校がほとんどない理由は？

**A 11** : 教科別指導が中心になるので根幹クラスを作るのが難しくなる。

**Q 12** : イエナプラン校の課題は？

**A 12** : トータル教育を目指しているが、それを教師が具体化して実践することが難しい。政府は教育の専門家ではないがいろいろ注文してきており、また、厳しく干渉してくる保護者があり苦労している。

**Q 13** : 情緒障害者の教育についてどう考えるか？

**A 13** : オランダでは伝統的に障害のタイプに応じた教育課程があったが、その多くは閉鎖された。今では障害を持つ子どもが一般の学校に入学しており、イエナプラン校にも入学している。その子どもとそれを受け入れる子どもに能力があるか考え、両方にとって良い方法を考える。ダウン症の場合、うまくいくケースが多い。イエナプランは、本来子どもはそれぞれ違うという考えに立っている。

Q14：根幹グループを担当する優秀な教師をどのように選定するのか？

A14：人事委員会があり、50～60 種類の能力チェックにより判断している。  
また、就職してから3年くらい教育を行っている。

Q15：イエナプランはいつからどのように始まったのか？

Q15：ドイツで1920年に始まった。イエナという町の小学校で始まり、第二次世界大戦中、共産主義の地域にあったが、オランダに飛び火し、今ある学校の多くは1960～70年代にできた。



## 【統括】

イエナプラン教育の考え方はトータルとして人間形成を目標としている。学ぶ過程を重視し、子どもの限りない自主性を信じ、自ら課題を見つけて学んでいく子どもを目指している。

この考え方は日本で10年前から取り入れられた総合学習に生かされている。総合学習の考え方は優れているが、学習過程を重視するあまり時間がかかりすぎる、知識の習得の時間が削られるなどのマイナス面も指摘されている。イエナプラン教育においても知識の習得という点では、

国際競争力から遅れをとっているとの反省が聞かれている。イエナプランでは教育目標の基本的な方針はあるが、具体化するにあたっては各教師に任されており、その自由度の高さと目標の幅広さが注目された。

一人ひとりを大切にし、トータルの人間形成を目標としたイエナプラン教育を学ぶことにより教育の何かを改めて考えさせられた。日本では教育目標が具体的にはっきり定められており、イエナプラン教育を取り入れることはできないが、学習過程を重視し子どもたちの無限の可能性を信じて取り組む考え方は学ぶべきであると思う。

オランダにおいては家庭で家族がいろいろとよく話し合うという良い伝統があり、イエナプラン教育はそれをベースに置いた教育方針をとっている。学校と親の教育方針が双方で理解と信頼の上によく機能していると考えられる。その意味では日本のすべての義務教育に単純に当てはめるのは難しいかもしれない。

イエナプラン教育では教師の資質の育成に特に力を入れているとのことであり、その中でも、子どもたちの話をよく聞く能力、子どもにどのように課題を提供できるかという能力の2点がポイントである。そして、この2点について徹底的に教師のトレーニングを行うことに力を入れているということが強く印象に残った。採用後の研修については川崎では1年間だが、イエナプラン教育では3年間行っている。日本の教員養成において再度見直してみる大切なポイントと考える。

イエナプラン教育について学ぶことで、子どもの個性を大切にし自主性を尊重し能力を最大限引き出す教育の在り方、家庭と教師の関わり方について改めて多くの示唆を得ることができた。また、教師は一人ひとりの子どもを見つめ、その子どもに応じたプログラムを考えようという姿勢やクラスが家庭的で周りの子どもの意見をしっかりと聞きあうという態度が重視されている点も素晴らしいと感じた。これらは社会性の育成につながるものであり、また、個々の子どもの個性を大切に作るポジティブな教育は、いじめの問題が深刻化している日本の教育に一つの警鐘と言える。また、現在あり方が問われている特別支援教育について、普通校で共に学ぶオランダの考え方も大変参考になった。